
スマブラ物語

ホーミルスター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ物語

【Nコード】

N7283Y

【作者名】

ホーミユルスター

【あらすじ】

ある悩みを持っていたマスターハンド。その悩みが話を始める！
集まったメンバーのハチャメチャ生活です！

この小説、下手かもしれませんがどうぞよろしく！

更新は一週間程度でできるといいな…

（注意！）

ところどころにキャラ崩壊が見られます。それでもいい方はどうぞ！

スマブラ誕生！（前書き）

小説スタート！どうぞよろしく！

スマブラ誕生！

むかしむかし。あるところにニンテンドーという宇宙があった……

その宇宙にはマスターハンドという神がいてすべてのものを作った

……

そして宇宙の中心にスマブラ星を作った……

ここは神のみが入れる空間。そこにはニンテンドーの神、マスターハンドがいた。

マスター 「うーん。よし！できた！」

マスターには以前から悩みがあった。それはそれぞれの世界が孤立してしまい交流がほとんどないことだ。

そしてついにその悩みを解決する組織、「スマッシュブラザーズ」ができたのだ。

スマッシュブラザーズとは、各国や星の代表を集め、戦わせたり生
活させて交流しようという

ものである！

マスター 「手紙を送って終了！フフフ……か月ほど後かな？楽し
みだ……」

こうしてスマッシュブラザーズ、略してスマブラが完成した。

スマブラ誕生！（後書き）

一週間程度で更新できるといいと思いますができないかも…
個人的に少しシリアスになる傾向がありますので…

マリオとルイージ

ここはマリオで有名な、キノコ王国。

ルイージ 「にいさん、にいさん、起きてよー。
もう10時だよ
！」

マリオ 「あと一時間だけ…」

ブチッ

何かが切れた音がした。

ルイージ 「とつとと起きろバカ！」

マリオ 「弟の分際で何言っているコラァ！」

ルイージ 「にいさん。起きたね。」

マリオ 「あ……………」

そしてマリオが朝食を食べていると、ルイージが叫んだ。

ルイージ 「にいさん！なんかマスターハンドって人から手紙来てるよ！あつ僕にもだ……」

マリオ 「そんな人知らないけど……………読んでみるか。」

手紙の内容はこうだ。

拝啓 マリオ殿

私はマスターハンド。この世界の神だ。

スマツシュブラザーズ、略してスマブラを作った。
来てくれ。

まあ、向こうで説明するから来てくれ！頼む！頼む！
頼むんだ〜！うお〜！

自分でもわかんねーな。ちっ

あ、地図つけといたから見てね。

マスターハンドより

マリオ 「意味不〜！！！！！！〜っかなんで神なんだし」

ルイージ 「でも土管ついてるししばらく仕事もないし行く？」

マリオ 「じゃ、行くか。」

マリオたちは一応地図は見ておいた。どうも宇宙の中心スマブラ星のマスター大陸、ザーズ国のスーマ町らしい。

まあ、用意をしたりでどーのこーのたつて一時間後

マリオ 「出発！」

てろてろてろ ↑土管の音

マリオ 「結構立派な建物だな。」

そこにあつたのはマスターハンドのいると思われるスマブラ合宿所
があつた……………

ルイージ 「大丈夫かな…怖いよ…。」

マリオたちは恐る恐る扉を開ける。すると……………

中から巨大な手袋が出てきた！

マリ・ルイ 「！手袋！」

マスター 「ようこそ。スマッシュブラザーズへ。私が管理人兼神マスターハンドだ。まあ、こう言うのがしきたりだから怒った風に言っただけで手袋って言うな！」

マリオ 「なんか怪しい……」

マスター 「まあ、説明は後ですからてきとくに建物を探検とかしといてくれ。あ、部屋鍵は渡しておくから寝ててもいいぞ。ここ

の生活は一日中寝ていても怒られることはないからな。私には。」

マリオ 「じゃ、俺寝とく。えつと俺は101か…」

ルイージ 「僕はこの建物を探検するよ！」

そうしてマリオはこれから起こる「何か」を期待し、眠るのであった。

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

翌朝、マリオは目覚めた。

なんだかいつもより布団が柔らかく、違和感を覚えるとともに飛び起きた。

マリオ 「ううーん……………？……………あれ？ルイージが起こしに  
来ないや……………？  
ってここはスマブラ合宿所だった！」

というか、あんたいい年してるんだからそろそろ自分で起きようね

マリオ 「うるさい！」

そんなこんなで起きたマリオはとりあえず着替えて、食堂へ向かう。  
しかし、彼はまだ今が10時だということを知らない。

1F 食堂

マリオ 「ルイージ、おはよ……」

ルイージ 「兄さん遅すぎッ！もう10時だよ！明日から8時に起きないと朝食抜き！」

マリオ 「そんな」

マリオはそう言って朝食を食べ始める。

しかししばらくすると見慣れない人がいて尋ねてみる。

マリオ 「……で、その美人と緑の青年と、ピンクボールは誰？」

リンク 「はじめまして、リンクです。緑の青年はちょっとやめといてください。」

サ姆斯 「はじめまして。サ姆斯よ。こう見えてもバウンディングハンター（賞金稼ぎ）をやっていたりするわ。」

カービィ 「はじめまして！ぼく、カービィっていうんだ！ポップスターからやってきたよ！」

マリオ 「はじめまして！俺はマリオ！よろしく！」

自己紹介が終わるとルイージが説明をした。

ルイージ 「この三人は兄さんが寝ている間に来たんだ。まったく兄さんはすぐ寝ちゃって…。昨日兄さんが寝たのはまだ5時だよ！」

マリオ 「いや…すまん、すまん。」

そこへ巨大手袋……いや、神であるマスターハンドがやってきた。

リンク 「でた」

マスター 「まあ、そういうな。ところでな、あとよていでは、ひーふーみー……7人来るはずなんだ。まあ、よろしく。」

全員 「それだけ！？というか人数ぐらい覚えておけよ！」

マスター 「うん。」

マスターさん。ここは普通に言っちゃだめですよ。

全員 「黙れ！」

神の声 「……」

マリオとルイージ（後書き）

うーん？みじかいの？ながいの？

## ゴリラ

マリオ 「ふわー。珍しく4時に起きてしまった……。」

ルイーダ 「ふわーおはよう……リンク、朝食づくり、手伝うよ……」

リンクは朝早起きなのでみんなの朝食を作ることになっていた。

また、リンクほどではなくとも早起きなルイーダも途中から作るのだった。いつもなら。

しかし……

マリオ 「遅いぞ！ルイーダ！遅いから朝食は俺とリンクで作っているからあっち行け！」

ルイーダ 「え！？にいさん！？何でいるの？」

リンク 「まあ、マリオさん、そう言わず手伝ってもらいましょう。」

マリオはルイーダからいつもブーブーいわれるので今度とばかりに  
！とブーブー言っていたのだ。

そして全員が起きて朝食が終わったところ……

「「「ギヤーツ!!!!!!!!!!!!!!」」」

フォックス 「な、なんだ？」

フォックスは気になって声のする方角……といっても二方向しかないのだが、その方角に行ってみた。

フォックス 「！サムス！」

サムス 「あら、フォックス？あなたも気になってきたのね？」

フォックス 「……………ああ。ところでこれはなんだ？」

フォックスはルイージの部屋がめちゃくちゃになっているのを見せた。

ルイージ 「……………う……………ううん？……………ハッ！僕どうして  
たんだっけ…………？」

???? 「いってーウホ！着地失敗…ウホ。」

そこにはゴリラがいた。

マスター 「ドンキー。こんなに荒っぽく来るな！」

フォックス 「知っているのか？」

マスター 「紹介しよう。新メンバーのドンキーコング、略してドンキーだ。」

????? ↓ドンキー 「はじめまして！ドンキーウホ！」

そしてこのことは夕食の時に伝えられ、晴れてドンキーはメンバーとなった。のだがルイージの部屋を壊してしまったので、部屋を交換することになった。なお、いまはマスターが直している途中である。

## ムキムキおやじ

前の話から一週間後……

マリオ 「なんか誰も来なくて面白くないな」

カービィ 「そうだよ！マスターも後6人来るって言ってたし！」

サ姆斯 「今日あたりくるかもしれないわ。エネルギー反応が急速に近づいているわ。」

パワードスーツを着たサ姆斯がそういう。

フォックス 「……なんかまた同じパターンかもな。」

そして今日の夕食……

マリオ 「そういえば今日ルイーザ見かけないな。どうしたんだ？」

マスター 「何か、風邪でねてるとさ。」

リンク 「それでは。」

全員 「いただきまーす！」

フォックス 「そういえばマスターは食べないのか？」

マスター 「食ってもいいんだが、食べる必要がないからな。神は。」

カービィ 「おかわりー！」

ドンキー 「相変わらずカービィは早いな〜ウホ。」

ドンキー は来たばかりなので見たことはあるがまだ慣れないのだ。

ちょうどそのころ……



ドンキーを除く全員 「またかー。（飽きたよこのパターン）」

作者 「しょうがないじゃん。ちよつといいのが思いつかなかったんだよ。」

全員 「誰!？」

作者 「この小説の作者だよ!ちなみに、神の声は自分がやっていたんだよ。」

マリオ 「へ〜。」

神の声を知っているのはマリオだけ。

作者 「あ、神の声は全般ナレーションだから、そっちのほうは気にしないで。」

こうして作者も交えた夕食が終わったところ……

作者 「じゃ、帰るね。」

全員 「ばいばーい」

全員 （ふう、あいつ帰ったよ。まったくうるさいな）

ルイージ 「ぼ……僕を忘れるな！っていつか犯人どこ行った！？」

ファルコン 「おれはここだ。キャプテンファルコン、ファルコンだ。よろしく。」

ルイージ 「よろしく……ってか僕の部屋めちゃくちゃだよ！」

ファルコン 「わリーわリー愛車がぶつかっちゃったぜ。しまつてくるからな。」

ルイージ （あいつムキムキだな……）

その後ルイージとファルコンは発見され、ファルコンは仲間と打ち解けた。ルイージは部屋を交換してもらい、一日が終わった。



外で遊べ！はしゃげ！はじける！

あれから三日…

マスター 「ちょっと外行ってくるから。みんなも行っていぞ。」

全員 「イエーイ！」

マリオ 「よし、パチンコ行くぞー！」

リンク 「修業しますか。」

ファルコン 「レースするぞ！」

フォックス 「おれもアーウィンの試運転をしなきゃな。」

ファルコン 「お！じゃあ試運転にレースしないか？」

マスター 「レースならコースあるから。場所は…地図を見ればわかるか。」

全員の行く場所は以下の通り。

マリオ……パチンコ

ルイーザ……ショッピングモールで食材の買い足し

サムス……ショッピングモールでお買い物

カービー……食べ放題パーク（食いしん坊がいく食べ放題の店が満載の遊園地）

フォックス……ファルコンとレース（最難関ステージ）

ファルコン……フォックスとレース

ドンキー……ジャングルでバナナを食べる

パチンコ店

マリオ 「1000Gゴールド分ください。」

店員 「はい。玉、一万個です。」

マリオ 「よっしゃー……!!賞品もびっぞー!!」

チーンジャラジャラチーン!

マリオ 「うおー!!」

客 (うるさいな……こいつ)

客はこいつがあのだのミスターニンテンドーのマリオだとは知る由もなかった。

ショッピングモールにて……

ルイージ 「肉も買わなきゃな……」

ルイージ は面白くないので無視。

ルイージ 「なんで！？ひどいよー！……！」

服屋で買い物をしているサムス。

サムス 「あーこれほしー！これも可愛いー！」

30分後……

店員 「お買い上げ、100000Gです。」

サムス 「一か月のお金使い果たした…」

マスターの修業所

リンク 「でやあ……！！！！！！回転切り！」

リンクはマスターの作ったカロンのような復活する敵を100体相手にしている。

リンク 「これは修行になるな……でえい！」

ジャングルにて

ゴリラ 「ゴリラじゃないウホ！」

バナナの森にたどり着こうとしているのだが知能が低いのかなかなか着かない。

ゴリラ 「てか、今ここどこウホー！」

食べ放題パークにて

カービィ 「10000G払えば食べ放題なんだよね？」

店員 「はい。」

カービィ 「よっしゃー！食うぞ食うぞ！」

3時

カービィ 「おいしいおいしいおいしい！ケーキ、肉、ジュース！」

カービィはなんと大量にあった食べ放題パークの4分の1の食料を  
食べつくした！

しかし・・・

??? 「うーん！たまらない〜！」

カービィ 「あれ？君誰？」

ヨッシー 「あ、私ヨッシーですー。あれ？なんでここにいの？」

マスター 「まったく。ここにいたか。ヨッシー。」

カービィ 「知ってるの？」

マスター 「ああ。こいつ、スマブラメンバーだぞ？」

カービィ 「ふーん。じゃあ、ヨッシー！グルメレースしよー！」

ヨッシー 「なんですか？それ。」

カービィ 「グルメレースっていうのは、コースにある食べ物を食べながらゴールを目指すゲームだよーやろーよー！」

ヨッシー 「なんかおいしそうですーやりますー！」

3

2



ウォーキー 「それではレディー？」

観客 「3！」

フォックス 「いよいよだぜ！」

観客 「2！」

ファルコン 「この俺は負けないぜ！」

観客 「1！」

フォックス 「しくじんなよ。」

ファルコン 「そっちこそ。」

ウォーキー 「スタート！」

外で遊ぶ！はしゃげ！はじける！（後書き）

感想、レビュー、アクセス数がない俺の作品は駄作なのか？

## グルメレース

ウォーキー 「さう始まりましたグルメレース！カービィ選手とヨッシー選手の入場です！」

観客 「わー！」

ヨッシーはカービィからルールなら聞かされているのでOK

ウォーキー 「レディー？」

カービィ 「3」

ヨッシー 「2」

観客 「1」

ウォーキー 「スタート！」

1ステージ 道路

ヨッシー 「秘密の作戦その一！卵産み！」

カービィ 「うわ…ちょm」

カービィは卵になった。

その上…

ヨッシー 「でえい！」

埋めた。

ヨッシー 「よし！スタート！」

結果

ヨッシー …… 68 p

カービィ …… 10 p

2ステージ 合宿所付近

ウォーキー 「スタート！」

ヨッシー 「もっかいはまれ！」

カービィ 「同じ手に乗るもんか！吸い込み！」

カービィはヨッシーを吸い込み…

吐き出した。

ヨッシー 「うわー！」

壁にぶつかったのだがここは…

ヨッシー 「ひどい！！ステージじゃん！」

その上…

車 「あぶねーぞ！てめえ！ひかれないのか！？」

ヨッシー 「怖かった…」

カービィ 「今のうち！」

結果

ヨッシー …… 68 + 0 p

カービィ …… 10 + 62 p

3ステージ ショッピングモール

ウォーキー 「スタート！」

カービィ 「もう技はなしにしよう。」

ヨッシー 「いいよ。ところでいいにおいがする。」

カービィ 「ほんとだ！食べ物の貯蓄庫があるんだ！行ってみよう！」

だだだだだだだだだだだだだだだだだだ↑ダッシュ

ルイーザ 「ふう。買い終わった〜ん？」

二人 「うお〜！」

ルイーザ 「ぎゃー！」

二人 「うんまい？」

結果

ヨッシー…… 68p

カービィ…… 72p

カービィの勝ち！

## エクストリームレース

ウォーキー 「さあ、始めました、エクストリームレース！かつのはどっちか！」

一の星 キノコ星

フォックス 「うおおおおお！レーザー発射！

ファルコン 「あぶねー！お、アイテムだ！」

フォックス 「もう一発！」

ファルコン 「あまい！」

ひゅん！

フォックス 「あぶねーあいつもレーザー持ってたか。」

ピュピュピュピュピュピュピュピュピュ↑レーザーの音

激しい打ち合いをしているとワープゾーンが見えてきた。

二人 「うおー！」

ワープ完了

二の星 ジャングル

ファルコン 「よし！一気に加速だ！ってうおおおお！」

バナナで滑った。

フォックス 「なんてこった…バナナだらけじゃないか。」

くるくる行きながらもようやくワープゾーンが見えてきた。

ワープ完了

三の星 ヨースター島

フォックス 「よし！アイテムで一気に加速だ！」

黄ヨッシー 「おーいなんかきたぞー」

青ヨッシー 「全員で、かかれー！」

フォックス 「なんだ？今までのパーツが全部取られるぞ！」

二人とも、パーツはZERO

ワープ完了

四の星 プププランド（正確にはポップスター）

フォックス 「エアライドコースか！走りやすいな。」

ファルコン 「スパーク！」

フォックス、右翼に被弾

フォックス 「なにを！極太レーザー発射！」

ファルコン、エンジン一号大破

二人 「うりやりやりやややあつやy！」

フォックス、エンジン4号に飛騨、機体下部大破、燃料漏れ

ファルコン、左翼消失、エンジン3号大破

ワープ完了

五の星 宇宙

隊員 「何か飛行物体を発見しました！」

艦長 「全館に告ぐ！至急謎の飛行物体を破壊せよ！」

二人 「うおおおつおおおつおお！ん？なんだ？」

ピュピュピュ

レーザーが飛んできた

フォックス 「こんなときだつてのに！」

フォックス、レーザー1号使用不能

ファルコン 「ぐあああー！」

ファルコン、エンジン2号大破

砲手 「うりやりやりやりやー！」

フォックス、エンジン3号、4号大破

ファルコン、機体腹部大破

二人とも最後のエンジンで何とかたどり着く。

二人 「勝つのは俺だ！」

フォックス 「消えてなくなれ！ウルトラレーザー砲発射！」

ファルコン 「永久に眠れ！波動砲発射！」

二人 「うおおおおおおおおおおおおおおおおお  
ぽおおおおおおおおお！」

ドーン！

勝ったのは…

フォックスだ！

## クリスマス

作者 「今日はクリスマスです。そこで！」

全員 「そこで？」

作者 「今日はクリスマスパーティーを開きます！食べ放題、飲み放題、遊び放題、プレゼントあり！」

全員 「イエーイ！」

マスター 「待った！お金はどうするんだ？」

作者 「もち、マスハンのお金で！」

マスター 「ちょまで！」

全員 「どこいくの？」

作者 「大宴会場を一日貸し切ってるから。行こう！」

マスター （泣）

店員 「ジュース入りました」

おいしいごちそう、楽しい宴会、おいしいジュースにうれしいプレゼント！

全員 「いやゝ楽しかったな」

マスター 「うえゝん……ひどいよ……」

店員 「お会計、一千万Gでございます」

マスター 「がーん」

## クリスマス（後書き）

クリスマスにつきウルトラ短くなりました

マスターのやっていたこと。大晦日。

マスター 「おい。連れてきたぞ!」

全員 「なにになに?」

マスター 「ピカチュウとプリンだ!よろしく!」

ピカチュウ 「宜しくピカ。」

プリン 「宜しくプリン。」

マスター 「第一回スマッシュブラザーズの内訳を発表する!

マリオ

ドンキー

リンク

サムス

ヨッシー

カービィ

フォックス

ピカチュウ

ルイージ

プリン

ファルコン

ネス

の12人だ!」

リンク 「ってことは後はネスって人ですね!」

マスター 「彼はテレポーションが使えるから遅い人でも迎えに行かなかったのだが…」

?? 「その必要はないよ。」

全員 「誰!？」

ネス 「みんなが話しているから気が付かなかったんじゃない? 僕はネス! よろしくね!」

作者 「会おうのもいいが、大掃除のシーズンだぞ。大掃除しろ!」

全員 「はい」

マリオ 「この木箱邪魔だな…ファイアボール!」

ルイーダ 「兄さん! 燃やしてもいいけど外でやって! 中でやられると片づけるの大変だから!」

そんなこんなで今夜は年越しそば。

全員 「いただきます！」

ネス 「二人ともそんなに食べて大丈夫？」

カー、ヨッ 「うん。」

0 : 0 0

次話に続く

あけおめ！ことよろ！

作者 「あけましておめでとぅございますー！ことしもよろしくおねがいします！」

全員 「よろしくー！」

マスター 「ぜい、ぜい、おせちできたよー！」

全員 「わー！」

カービィとヨッシーは大食いで早食い。大量に必要だ。

マスター 「あー忙しいいそがし」

マスター 「みんなも掃除したらどうだよー！」

全員 「めんどくさい」

マスター 「作者ー！」

作者 「何？」

マスター 「なんか俺最近ひどい目にあってるんだけど。」

作者 「まあ、そのうち止むさ。」

マスター 「ひどい！一応確認しておくけど俺神だから！」

全員 「ふん。で？」

マスター 「もう嫌だ！」

あけおめ！ことよろ！（後書き）

いやゝ短いです！すいません！

でも一応言っておきます。

あけましておめでとうございます！ことしもよろしくおねがいします！

マスター、ひどい目にあいすぎなのでそろそろ解除しようかな？

マスター 「ほんと？やったー！」

## 大乱闘の前に♪

♪  
♪  
♪  
♪  
♪

放送「ただいま4時！全員おきよ！」

全員「うるせー！朝の4時なんだ！」

放送「おきよ！おきよ！」

全員「……」

マリオ 「マスター。なんだよ！朝の4時に叩き起こしやがって！」

マスター 「コホン。（無視）ではみんな。大乱闘をやりたくないか？！？」

しゅん

マスター 「大乱闘を、やりたくないか！？」

しゅん

マスター 「やりたくないか！？」

しゅん

ルイージ 「ちょっとまって！大乱闘って何！」

沈黙を破ったのは、ルイージ。

マスター 「よくぞ聞いてくれた。大乱闘とはな、ズバリ！それぞれの技を駆使して相手を吹っ飛ばして勝つアクションゲーム…おっと…スポーツだ！」

ルイージ 「ちょっとまって！アクションゲームってなんだよ！」

マスター 「……（作者、タイプミスるな！）…神だからな。」

マリオ 「答えになってねーぞ！」

マスター 「で、（無視）やってみたくないか！？」

ピカチュウ 「痛そう」

マスター 「痛みは感じないように特殊加工してある。」

リンク 「ステージは？」

マスター 「こちらで用意する。てかしてある。」

カービィ 「おなかすいたー」

マスター 「マキシムトマトとハートの器で回復できる！」

マリオ 「技ってなんだー」

ネス 「PKギャラクシーデスハリケーンΩ（そんな技はありません）使っていていい？」

ヨッシー 「卵食べていいですかー？」

サムス 「レーザー類もあり？」

ファルコン 「俺の筋肉を見よ……」

マスター 「五月蠅ーい！！！！！！あとはルールの本渡しておくから読め！会議終わり！（怒）」

こつして朝は終わった

## 大乱闘の前に♪（後書き）

明日で学校が始まる…

冬休み、長いようで短いけど楽しかったな…

あ、感想、評価、レビュー待ってます！

## PV1000突破記念！

マスター 「説明読んだようだし一回乱闘やるぞ〜！」

?? 「ちよつとまつた！」

マスター 「何者だ！」

作者 「今回はただの告知だ。あんたは控えてろ。」

マスター 「…はい。」

マリオ （地味にドラマっぽくなってる…）

作者 「実はだな…この小説…」

全員 「ゴクリ…」

作者 「1000アクセス突破した！」

全員 「やったー！」

マスター 「なんでこんな駄作が…」

作者 「いやゝ たった今見てきたら超えてたんだよ。 1000アクセス。」

マスター 「…いや…でもそれ、ユニークじゃなくてPVでしょ…」

全員 「あ…」

作者 「確かにPVは1000人超えててもユニークは280人くらいなんだよね…」

## PV1000突破記念！（後書き）

マジ

本気で今見たらPV1000超えてました！

これからも駄作かもしれませんがスマブラ物語をよろしくおねがいします！

感想、評価、レビューまってまーす。

いよいよ

マスター 「改めて説明読んだかー!？」

全員 「うん。」

マスター 「物は試した。第一回大乱闘開くからそのつもりで。明日午後一時からだ。OK？」

全員 「…まあ、…うん……」

マスター 「じゃあ、解散」

そして翌日

マリオ 「新しいドームができていてそこでやるんだって。」

カービィ 「近い？」

マリオ 「敷地内だってさ。」

町にて

マスター 「今日午後一時から大乱闘やりまーす！集まってくださいーい！」

必死になってビラ配りをしているマスター。神なんだからなんか作ってそいつにやらせればいいのに。キノピオとかワドルディとか……

マスター 「神の声五月蠅い！」

午後一時 マスタードーム

マリオ 「なんで名前がマスタードームなんだ！スマブラドームにしろ！」

全員 「そうだそうだ！」

マスター 「……わーった。わーった。」

マスタードーム↓スマブラドーム↑一瞬で改名ですね！

マスター 「レディースアードジェントルマン！ようこそお越しくださいました！それでは第一回大乱闘を開催いたします！」

観客 「わー！！！！！」

マスター 「トーナメント表はこの通り！一回戦、マリオ対サマス  
対フォックス！二回戦、リンク対フォックス対ネス！三回戦、カー  
ビィ対ルイーザ対ファルコン！四回戦、ピカチュウ対プリン対ドン  
キーです！」

観客 「わー！！！！！」

マスター 「それでは一回戦、マリオ対サマス対フォックス！レデ  
イー！？ゴー！」

サマス 「いくわ！」

サマスはそう言って何かをためだした。

サマス 「発射！」

そして巨大なエネルギー弾をフォックスに向けた！

しかし…

フォックス 「甘いな。リフレクター！」

サムス 「ちょっと！」

サムスにはかすったもののよけた。

観客 「わー！！！！！」

続く

いよいよ(後書き)

大乱闘開始！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7283y/>

---

スマブラ物語

2012年1月10日06時49分発行